

[水泳] ジャパンオープン2007

岩崎 50メートル・100メートルで日本人トップの3位

ジャパンオープン2007(日本短水路選手権水泳競技大会)が3月3、4の両日、東京辰巳国際水泳場で行われ、岩崎優(経営3・湘南工大附属高)が自由形の50、100で日本人トップの3位と活躍した。

50自由形は3位から8位までが25秒台にひしめくという短距離ならではの競り合いになったが、25秒30で3位に食い込んだ。また、日本代表選手が3人出場した同100では岩崎はその3人を抑え、4位に1秒02差の54秒74でゴールした。

「合宿後で疲れが残っていたが、ともにベストタイムを出すことが出来た。次の目標は4月の日本選手権。自信を持って臨みたい」と話した。今大会好タイムを出した岩崎から目が離せない。

(松原 弘和・法1)

[スピードスケート] 全日本選抜

1500メートルで今野2位

全日本選抜スピードスケート競技会が2月23日から25日まで、岩手県営スケート場で開かれ、1500で今野陽太(経営2・白樺学園高)が2位に入賞した。

そのほか3000で及川一也(経済1・釧路北陽高)が5位、5000で道下雅史(経営2・白樺学園高)が8位、今野が9位、1万で道下が9位となった。

また、北海道スピードスケート選手権(2月15～18日、苫小牧市ハイランドスポーツセンター屋外リンク)では、総合部門で今野が2位、道下が3位となった。

(加藤 未希・文2)

[陸上競技] 神奈川マラソン

ハーフ大学男子の部 酒井が優勝

2月4日、神奈川マラソンが横浜市磯子区で開催され、ハーフマラソン大学男子の部に専大から7人が出場し、酒井潤一（経営1・久里浜高）が1時間4分59秒で見事優勝を飾った＝写真。

専大勢は積極的に先頭集団でレースを進めた。酒井は15キロまで先頭集団の後ろにつき、ラスト5キロで切り替え、残り1キロでスパートすると、2位に4秒の差をつけてゴールテープを切った。「地元・神奈川県の大会で優勝できたので気分がいいです」と喜びを語った。近藤孝志コーチは「新チームにとって幸先の良いスタートとなった。トラックシーズンを前に、これから走りこみをしっかりやっていきます」と話した。

（有馬 利香・商2）



※今年から日本陸連公認レースとなり、記録は公式となる。

[柔道] 米・パシフィック国際大会

66kg級・中沢が優勝 81kg級・山本主将3位

2月24日、米バージニア州のリッチモンドで行われたパシフィック国際柔道大会で、中沢健太郎(文3・松本第一高)が66kg級で優勝、山本拓真主将(商3・長崎南山高)が81kg級で3位入賞を果たした。

東京学生柔道連盟の海外研修の一環として開催された今大会。すべて一本勝ちで制した中沢だったが、慢心することなく「自分にはまだ決め技がないので、ポイントの取れる技を作りたい」と、課題を語った。

山本主将は「外国人との試合は初めてで、独特のスタイルや力の違いを知り、良い経験になった」と話し、主将として「自分たちが基礎を築き、後輩たちが続いていける土台を作りたい。まずはレベルの高い東京で勝ち抜き、全国大会に出ることが目標です」と語った。

新学期から二人とも最高学年。「結果を残す」と、固い決意を述べた。



▲日本代表の柔道着に身を包み、メダルを手に記念撮影(右端が山本、1人おいて中沢)

(松本 かおり・文1)

[スキー] 全日本学生

女子が総合3位 各種目で上位に

全日本学生スキー選手権が2月17日から25日まで、青森県の大鰐温泉スキー場で行われ、専大勢は各種目で上位入賞を果たし、女子が学校対抗別総合で3位となった。

【アルペン】

スーパー大回転で船渡千裕(法4・高山高)が3位、安田かずみ(経営3・歌志内高)が4位。大回転では3位に安田、船渡が6位、回転で安田が6位入賞を果たした。



▲クロスカントリーで上位に食い込んだ大森

【クロスカントリー】

大森菜保子(経済2・花輪高)が1・3キロスプリントで2位、5キロクラシカルで3位、下平恵理華(商2・飯山南高)が1・3キロスプリントで4位、10キロフリーで5位と上位に入賞。最終日のクロスカントリーリレー(5キロ×3)は3位となり、学校対抗得点で早大と並んだが、総合得点と同じ場合、リレーの順位で上位が決まるため、惜しくも総合3位となった。

男子はふるわず、学校対抗別総合で14位に終わり、2部に降格した。

秋田わか杉国体

国民体育大会冬季大会スキー競技会(2月10～13日、秋田県仙北市ほか)に専大からアルペンに8人、クロスカントリーに8人が出場。クロスカントリーリレーで下平が長野県2位に、大森が秋田県4位に貢献した。

(荻野 敦子・文2)

東都大学野球展望

オープン戦で手ごたえ 4月10日初戦は國學大

桜前線と共に野球の季節が今年も訪れる。東都大学野球春季リーグ戦に挑む野球部は、9季ぶりの1部復帰ということもあり厳しい戦いが予想される。しかし、延岡キャンプでの猛練習や伊勢原球場でのオープン戦で着実に力をつけている。注目の開幕戦は4月10日、國學院大戦。

今季の魅力はチームワークだ。松林康德主将(経営3・常総学院高)が「一人ひとりがチームの一員だということを自覚し、全員一丸となって戦える力をつけていきます」と話すように、部の雰囲気はとて明るい。練習中はもちろん試合中も声が絶えることはなく、チーム状態が良いことをうかがわせた。オープン戦の仕上がりがも順調で、7勝1敗1分と好調を維持している。長谷高成泰監督は「自分たちの力を出し切り、全員で戦う。優勝を目指すことはもちろん、一戦必勝で戦いたい」と語る。

今年のスローガンは「日本一 Try your best～熱くなれ」。東都1部最多優勝回数の更新、そして日本一へ向けて突き進む野球部をぜひ、神宮で応援してほしい。

(田口 能成・経営2)



▲練習のテーマは「チーム一丸」

レスリング・荒木田 米の国際大会に出場

2月9、10の両日、米国コロラドスプリングズで、レスリングのデーブ・シュルツ・メモリアル国際大会が開かれ、日本学生選抜チームの一員として荒木田進謙(経済1・光星学院高)がフリースタイル120kg級に出場した。2回戦でフォール負けを喫し、入賞はならなかった。

(有馬 利香・商2)

「第43回体育回リーダーズキャンプ」開催

各部主将・主務100人が集結

「リーダーの素質」テーマに討論や発表筆意識高める

3月1、2の両日、熱海市の「熱海後楽園ホテル」で、体育会各部の代表者（主将、主務）約100人が集結し、第43回専修大学体育会リーダーズキャンプ（主催＝体育会本部）が行われた。

『リーダー』としての自己への問いかけ—リーダーに求められる資質とは—をテーマに、マネジメントや身体ケア、トレーニングの専門家が独自の視点で講演。またテーマに沿ってグループごとに討論や発表を行い、リーダーとしての意識を高めた。ふだん接することの少ない仲間たちと交流し、有意義な時間を過ごした。



（松本 かおり・文1）